

地域課題に取り組んでいます

～ 市民活動団体紹介 ～

問い合わせ 自治振興課 ☎2142

市では、市民活動団体が地域課題の解決のために提案・実施する事業を募集し、助成金を交付しています。
平成26・27年度に市民活動助成事業の対象となった団体を紹介します。

おおたけ手すき和紙保存会

(代表者 中本 伊勢雄)

地域の課題

会員の高齢化が進み、会員だけでコウゾの栽培や紙料づくりを行うことが難しくなっています。

また、保存会の活動や和紙について十分に情報発信ができておらず、市民の関心が高まっていません。

活動の目的

400年以上前に始まったとされる、大竹手すき和紙の製造方法の保持、伝承を行っています。また、手すき和紙づくりの体験会を実施し、和紙づくりへの関心を深めるとともに、保存会会員の活動を支援する「大竹和紙サポーターズ」の育成を目指します。

活動の内容

コウゾ畑の手入れや和紙の原料づくりなど、年間を通して活動しています。紙すき作業は10月から6月の間にを行います。

①大竹和紙の生産

コウゾの自家栽培から手すき和紙の生産まで一貫して行っています。

②大竹和紙PR活動

「大竹和紙小市」でのキズヨリ実演や手すきこいのほり展示会への協力などにより、大竹和紙の存在をアピールしています。

③教育活動への協力

書初め大会への協力や体験学習の受け入れなど、創造性豊かな人づくりに貢献しています。

活動の財源

手すき和紙の販売収入、体験学習等の参加料が主な財源となっています。

助成事業（助成金）による効果

県内外から多くの方に和紙づくり体験会に参加していただきました。また、現在「大竹和紙サポーターズ」の呼びかけのもと、いろいろな行事に参加しています。

今後の予定、将来的に取り組みたい課題

広島県で唯一の手すき和紙の産地として、大竹和紙に対する誇りを醸成する活動に力を入れたいと思っています。

《和紙づくり体験会の様子》



地域ジンまちカフェプロジェクト

(代表者 伊藤 信子)

地域の課題

玖波地区では、周囲との交流が少なく、地域のつながりが希薄になってきています。人と人のつながりのない生活「ひとり化」が進んでいます。

活動の目的

地域の居場所づくりのため、空き古民家を利用し、地域の方が気軽に利用できるサロン作りを目的としています。昔懐かしいレトロな雰囲気、高齢者が和めるよう、また、子どもたちにも伝えていける三世代交流の場をつくれます。

活動の内容

玖波公民館で行っている学びのカフェと連携し、地域の課題解決のため、まちの活性化を促進します。

①まちカフェの開催

空き古民家を利用して、地域の方が気軽に立ち寄れる居場所を作っています。

②学びのカフェの課外活動

レトロファッションショーや地元の人によるふるさと講演会など、さまざまなイベントを開催しています。中学生が企画段階から加わることで多世代交流を図っています。

③まちの資料館

地域の方から集めた昔の懐かしい写真や資料を展示しています。学校では学べないまちの歴史を学習できる場となっています。

活動の財源

会員からの会費が主な財源となっています。

助成事業（助成金）による効果

助成金を活用することで古民家にエアコンや机・棚を整備することができました。これにより、利用者へ快適な空間を提供することができるようになりました。

今後の予定、将来的に取り組みたい課題

まちを元気にするさまざまなイベントを企画・実現していきたいと考えています。



《古民家の整備状況（エアコン・机・棚）》